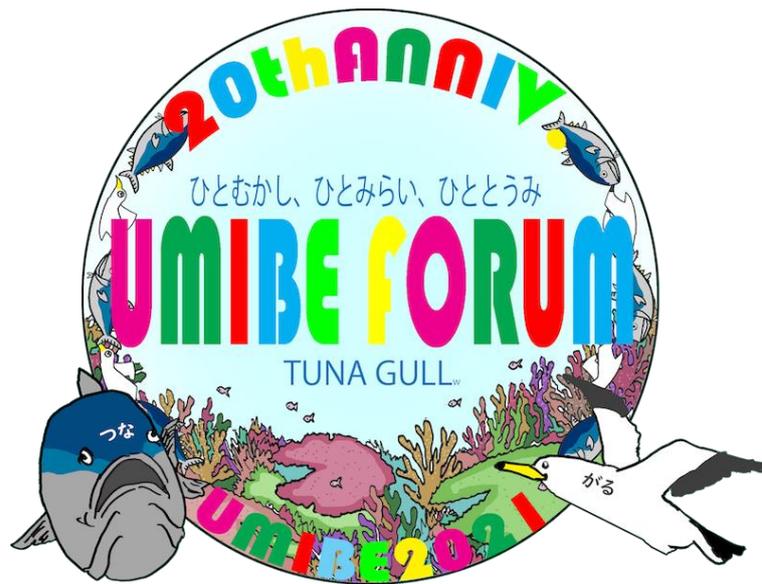


海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE

ひとむかし、ひとみらい、ひととうみ

報告書



2022年1月

海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE 実行委員会

はじめに

「海辺の環境教育フォーラム」は、海辺から環境教育について考えていきたい、そう考える有志が集うゆるやかな自主ネットワークです。参加者はエコツアーガイド、水族館職員、ダイビングインストラクター、環境教育系のNPO、大学教員、漁師、アーティストなど様々です。メーリングリストを中心とした情報交換や、コラボレーション事業などを展開しており、2001年から、おおよそ毎年1回のペースで実際に集まってのフォーラムを開催してきました。このフォーラムには決まった実行委員がおらず、毎回スクラップ&ビルドでその時々テーマや地域に合わせた企画が行われていることが特徴です。

2021年も、2020年に続き新型コロナウイルスの影響で、実際に集まってのフォーラム開催が困難な状況となりました。そんな中でも「海辺で活動する皆のつながりを維持し、交流する場を設けたい」との思いから、2020年に引きつづきオンラインでのフォーラムを企画しました。2021年は、2001年の第1回海辺フォーラムから20周年に当たります。

2021年8月に有志が集ってオンライン上で実行委員会を組織し、準備を開始しました。今年のテーマは「ひとむかし、ひとみらい、ひととうみ」。学生実行委員が多かったことから、分科会の企画は学生主体で企画を考え、ベテラン勢がそのサポートをするという体制で準備を進めました。最終的に70名の皆さまにお申込をいただき、12月4日の開催当日は56名の参加がありました。

オンサイトの代替として始まったオンラインでのフォーラムですが、遠方からの旅費がかからず、子育て中等で時間のとりにくい人でも参加しやすいというメリットがあり、今後もオンラインの需要はあるのではないかと考えています。2年続けて対面での開催ができなかったことは残念ではありますが、オンラインという新たな可能性が見えたこと、また、この状況下でも「つながり」を維持できたのは収穫だったのではないのでしょうか。このオンラインでの経験が、今後の海辺の環境教育フォーラムに活かされることを期待しています。

2022年1月

共同実行委員長 河内 直子@北海道

【目次】

[フライヤー]	…1
[開催概要]	…2
[各分科会の報告書]	
・ あなたの海辺—いま、むかし、これから	…4
・ 海や生きものの見せ方伝え方は無限大!!	…6
・ 私のあなたの理想の水族館	…8
・ 伝えたい 知りたい 海の世界の泳ぎ方	…10
[2020年参加費還元企画「海辺ジャンボ3万円!」報告]	…13
[事後アンケートからの声]	…14
[添付資料:参加者への配布資料]	…21
[おわりに]	…39
[実行委員名簿]	…41

海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE

ひとあかし、ひとみらい、ひとどうみ



日時：2021年 **12**月 **4**日(土) **10:00 - 16:00**

開催ツール：Zoom

参加費：¥1,000 (高校生以下無料)

定員：100名 (先着順)

お申込： <https://umibe2021.peatix.com>

申込〆切： **11月30日**

【プログラム】

10:00 開会・アイスブレイク
10:30 - 12:00 分科会 1・2
13:30 - 15:00 分科会 3・4
15:10 - 15:40 昨年の助成の報告
15:40 - 16:00 ふりかえり・閉会
19:00 - 懇親会

【分科会】

1. あなたの海辺 —いま、むかし、これから—

話題提供：飯嶋修 (一般財団法人休暇村協会)、神田優 (黒潮実感センター)、
松政正俊 (岩手医科大学)、山本徹 (日本水中科学協会)

2. 海や生きものが見せ方伝え方は無限大！

話題提供：伊東久枝 (海の環境教育 NPO Bridge)、植月沙織 (Zaoric Knit Knit)、
(他調整中)

3. 私の、あなたの理想の水族館

話題提供：河合晴義 (LightAnimal)、古川健 (ふくしま海洋科学館)、村山司 (東海大学)

4. 伝えたい 知りたい 海の世界の泳ぎ方

話題提供：大堀則子 (わくわくサンゴ石垣島)、徳岡春美 (西表島エコツーリズム協会)、
古瀬浩史 (帝京科学大学)

プログラムの詳細・お問合せ： <https://umibef.com/2021online/>

主催：海辺の環境教育フォーラム 2021 online 実行委員会

後援：公益社団法人 日本環境教育フォーラム (JEEF)

特定非営利活動法人 日本安全潜水教育協会 (JCUE)

一般社団法人 日本インタープリテーション協会

お申込は
こちらから！



【海辺の環境教育フォーラム 2021 オンライン】開催概要

「ひとむかし、ひとみらい、ひととうみ」

十年一昔(じゅうねんひとむかし)という言葉があります。海の様子、そして人と海の関係は、10年前から今日までにどう変わって・あるいは変わらずにいるでしょうか。

ひと昔前といま、そして「ひと未来」。

今年は海辺の環境教育フォーラムがスタートして 20 周年の節目です。これまでの 20 年で変わったこと、そしてこれから先の人と海の関係がどうなるか、どんなふうにしたいか、みんなで考えてみませんか。

【開催要項】

開催日時:2021年12月4日(土)10時~16時

開催方法:Zoomによるオンライン開催

参加費:1000円(高校生以下無料)

定員:100名程度

【タイムスケジュール】

9:50~ 開場

10:00~10:30 はじまりの会

10:30~12:00 午前のセッション(分科会1、分科会2)

12:00~13:30 休憩

13:30~15:00 午後のセッション(分科会3、分科会4)

15:00~15:10 休憩

15:10~15:40 参加費還元企画「海辺ジャンボ3万円」報告会

15:40~16:00 おわりの会

19:00~22:00 懇親会

各分科会の報告

【分科会 1】

記入者：安西 雅季

分科会概要	<p>「あなたの海辺—いま、むかし、これから」</p> <p>この 10 年、みなさんの生活はどのように変化してきましたでしょうか。生活だけではなく、海辺の環境の変化を感じ取っている方も多いと思います。昔といまの海辺の姿を写真で見比べながら、みんなで未来の海の姿を描く 90 分。海辺のためにしてきたこと、していること、していきたいことをシェアしませんか。</p>
オーガナイザー	安西 雅季 田中 奏子
登壇者	<p>飯嶋 修さん（一般財団法人休暇村協会）</p> <p>神田 優さん（黒潮実感センター）</p> <p>松政 正俊さん（岩手医科大学）</p> <p>山本 徹さん（日本水中科学協会）</p>
参加者数	17 名
タイムテーブル	<p>10:30 挨拶 説明</p> <p>10:35 神田さん（10 分）</p> <p>10:45 松政さん（10 分）</p> <p>10:55 山本さん（10 分）</p> <p>11:05 飯嶋さん（10 分）</p> <p>11:15 質問・感想</p> <p>11:35 参加者の身近な海と問題</p> <p>11:55 振り返り・分科会での発見など</p>
<p>●分科会の内容</p> <p>日本はたくさんの海辺があり、環境問題や地域問題、大きな災害による影響などを受けていて、変化している場所が多くあると思います。岩手、高知、鹿児島、東京の海辺について紹介していただき、昔と今の変化について知り、未来の海辺について考える分科会を作りました。</p> <p>4 つの海辺について紹介していただきましたが、環境問題の影響を受けている海辺、災害を経験した海辺、たくさんサンゴがいる海、東京オリンピックの会場となった海辺などがありました。ご登壇の方々から一通り発表をしていただいた後に質問コーナーを行いました。参加者からさまざまな質問を頂き、それぞれの海辺についてより深くお答えしていただきました。</p> <p>35 分からは参加者の方の海辺や、環境問題についてお話しをしました。</p> <p>さまざまな地域や職業の方が参加していることが分かったり、さまざまな環境問題の考えや視点があると感じました。</p> <p>振り返りではオーガナイザーの安西と田中がこの分科会の感想や発見をお話しさせていただきました。</p>	

ご登壇の方々から参加者の方まで、参加していただいた方々にこの分科会を満足して頂
きくことができたのではないかと思います。

●今後に向けた意見

質問コーナーの時に挙手制よりも運営側が指名する方が良いのでは思いました。沈黙の
時間が少し多かったかもしれません。



【分科会 2】

記入者：村岡 秀

分科会概要	<p>「海や生きものの見せ方伝え方は無限大!!」</p> <p>海や生きものに興味を持ったきっかけは? どんな方法で伝える?…水族館、編み物、Web で伝える取り組みを紹介し、皆様の楽しい経験やアイデアを交換する 90 分。新たな興味や発見が生まれるかもしれません☆!</p>
オーガナイザー	<p>司会進行 村岡 秀 (帝京科学大学生命環境学部)</p> <p>ブレイクアウトルーム 3 部屋担当 鹿谷 麻夕 (しかたに自然案内) 河内 直子 (Amamo Works) 村岡 秀 (帝京科学大学生命環境学部)</p>
登壇者	<p>伊東 久枝さん (海の環境教育 NPO bridge) 植月 沙織さん (ZAORIC knitknit) 比嘉 明日香さん (一般財団法人 沖縄美ら島財団)</p>
参加者数	23 名
タイムテーブル	<p>10:30~挨拶・スピーカー紹介・進め方説明</p> <p>10:40~伊東さん「海の教材が無料でダウンロードできる 海洋学習教材サイト『LAB to CLASS』をもっともっとひろめたい!!」</p> <p>10:50~ZAORIC さん「かぎ針編みで作る海の生き物たちのワークショップ」</p> <p>11:00~比嘉さん「コロナ禍で変化した教育普及の取り組みについて」</p> <p>11:10~3つのブレイクアウトルームに分かれて意見交換・ワークショップ</p> <p>11:50~大部屋に戻って各部屋の内容をシェア+ご登壇者の方から一言</p> <p>12:00 午後の部についてのアナウンス、終了</p>
●分科会の内容	
<p>本分科会では、海や生きものの見せ方伝え方について、新しいアイデアや意見交換、情報の共有を行うことで、海辺の環境教育や海辺との関わり方の視野を広げることを目的に企画しました。今回は、水族館、編み物、Web コンテンツの3つの分野から、海や生きものについて見せる・伝える活動や取り組み、コロナ禍のことについてご登壇の方々から話題提供をいただきました。その後、登壇者ごとに3つのブレイクアウトルームに分かれ、参加者は興味のある部屋に参加しました。各ブレイクアウトルームで、意見交換、ワークショップを実施し、最終的に全体で集まり、共有とまとめを行いました。異なった分野のお三方に話題提供いただき、参加者の方のご意見も踏まえて、海や生きものとの関わ</p>	

り方、見せ方伝え方の可能性を知る、広げることができた分科会となりました。

<各ブレイクアウトルームの内容>

【伊東さん】

ブレイクアウトルームに分かれた後、参加者の方の自己紹介と興味のあること、環境教育についての考え等をお話しいただき、その後、各自が行なっているオンライン企画の紹介をしていただきました。今後の展望や、具体的にオンラインイベントの実施に向け、企画している方のお話を聞くことができ、ご登壇者、参加者共にアイデアや情報の共有を行うことができました。

【ZAORICさん】

参加者の方は、事前にかぎ針と毛糸を用意していただき、かぎ針編みでクラゲを作るワークショップを実施しました。基本の編み方のレクチャーと作成時の生きものの観察ポイントを教えていただきながら作成しました。

【比嘉さん】

ブレイクアウトルームに分かれた後、参加者の方に自己紹介とコロナによる変化についてお話しいただき、その後、質疑応答形式で、コロナ禍で始めた新しい取り組みについて、企画を行ううえでの視点や、機材等の使用への努力や課題、解説員という仕事について、コロナのおかげでできるようになったことや、変化した生きもの・お客様に対する寄り添い方等について意見交換を行いました。

●今後に向けた意見

・準備段階のことについて、ご登壇者の方との事前打ち合わせが直前になってしまったので、もう少し計画的に行うべきだったと思いました。

・各ブレイクアウトルームの内容の共有時間が短かったとのご意見をいただきました。タイムテーブル上しかたのない面もありますが、話し足りなかったことは懇親会での話題にさせていただくなど、話をうまく振る等の工夫ができればよかったと思いました。



【分科会 3】

記入者：由井 沙帆子

分科会概要	「私のあなたの理想の水族館」 みなさんの「理想の水族館」はどんなところですか？「こんな水族館にできる？」「この展示が発展するとどうなる？」「生きものともお話しできる？」未来の水族館の展示や教育での活用について一緒に考えましょう！
オーガナイザー	由井 沙帆子、村岡 秀(帝京科学大学)、田中 奏子(サンシャインコースト大学)
登壇者	・河合 晴義さん(LightAnimal) ・古川 健さん(アクアマリンふくしま) ・村山 司さん(東海大学)
参加者数	15 名
タイムテーブル	13:30~ 挨拶、講演者紹介 13:34~ 河合さん講演+質疑応答 2分 13:51~ 古川さん講演+質疑応答 2分 14:08~ 村山さん講演+質疑応答 2分 14:25~ 講演者の方に抜けていただく 14:27~ ブレイクアウトルーム 14:47~ メインルームで振り返り
●分科会の内容	
<p>「私のあなたの理想の水族館」ではオーガナイザーの内の学生3人が興味のある分野で活躍されている方をお呼びし、ご講演の後に3つのブレイクアウトルームに分かれ、理想の水族館について話し合いをしました。その後、全体でどのような話が出たかを共有しました。</p> <p><河合さん・デジタル動物展示がもたらす可能性></p> <p>河合晴義さんのお話を聞いた感想として、生体展示を代替する展示方法が存在する事・そこまで技術が発達している事を初めて知った、実際に見てみたい、という声が多く上がり、新たな展示方法へ肯定的である傾向が伺えました。一方で、五感、特に嗅覚・触覚による生体展示のメリットがデジタル展示では再現しきれないとの意見が上がりました。未来の水族館像としては、教育目的の場としてあるためにも、財政難により動物福祉を守る事のできない水族館はデジタル展示への全面シフト、その他の水族館ではデジタルと生体のハイブリット型展示が理想的であると挙がりました。</p> <p><古川さん・アクアマリンふくしまが開催している水生生物とのふれあいとその意義></p> <p>古川さんのお話を聞いた感想として、ふれあい展示は生き物に興味を持ってもらえるきっかけになる有効な展示だが、生き物に負担がかかっている、企画者の意図が伝わらない展示である、生きていることを実感することで情操教育にもなる、日本のタッチプ</p>	

ールのレベルが高い、フィールドに出るより安全・安心であるなどの意見が出ました。理想の水族館として、保護個体や人が及ぼしている害の情報公開や展示を積極的に行ってほしい、フィールドに行けない人に興味を持ってもらう展示としてふれあい展示は必要である、触り方を教えるためにもふれあい展示に解説員は必要である、磯などに行っている気分になれる雰囲気タッチプールが増えてほしいなどの意見があがりました。

<村山さん・いつかイルカと話す日>

村山さんのお話を聞いた感想として、チンパンジー等、他の動物での言語研究は聞いたことがあったが、イルカでは初めて聞いたため、今後の研究の発展に期待しているとの声や、研究している個体以外への影響についての疑問、加えて、言語研究の手順の説明を聞いて、ヒトが言葉を覚える手段や方法と同じだなあと感心する意見や、イヌやネコで言語翻訳機械が存在しているので、イルカでもできるのではないかといった今後の発展に向けて期待する意見が出ました。また、理想の水族館として、生物のことを考えれば考える程、問題点や改善点等が出てきて、飼育環境を整えるにも、理想を追い求めるときりがないという意見が出ました。最終的には、生きものの言語研究を経て、コミュニケーションをとれるようになることで、生きものの考えを理解し、生物により多くの選択肢を与えられるような水族館を理想の水族館とする考えに至りました。

●今後に向けた意見

ブレイクアウトルーム中は全体を表示したほうが、録画視聴のときに見やすいと感じました。

<担当者>



【分科会 4】

記入者：安西 雅季・興 海佑

分科会名	「伝えたい 知りたい 海の世界の泳ぎ方」 海の世界（海に関わるお仕事）へこれから泳いでいくには何が必要？オトナの皆さんはどのようにして泳いできたのか。これまでのこと教えてください。そして、これからのこと一緒にお話しましょう。参加者のみなさんも伝えたいこと知りたいこと持ち寄りませんか？みんなで海の世界をのぞきましょう！
オーガナイザー	・安西 雅季（帝京科学大学3年） ・興 海佑（帝京科学大学4年）
登壇者	・大堀 則子さん(わくわくサンゴ石垣島) ・徳岡 春美さん(特定非営利活動法人 西表島エコツーリズム協会) ・古瀬 浩史さん(帝京科学大学 / 海辺の環境教育フォーラム事務局)
参加者数	25名
タイムテーブル	13:30~15:00 13:00 挨拶・スピーカー紹介・進め方説明 5分 13:05 大堀さん「出会ってつながった!海辺の環境教育@石垣島」 13:25 徳岡さん「ヤマナ・カーラ・スナ・ピトゥ(ヤマ・カワ・ウミ・ヒト)」 13:45 古瀬さん「海辺の環境教育よろず相談所」 14:05 質問タイム、まとめ
●分科会の内容	
<p>海の世界を泳いでいく(海関係の仕事に就く)にはどうしたらいいのか。海に関わるお仕事をこなしている方々に、インタビュー形式でお話をお伺いし、その後、参加者のみなさんからのご質問にお答えいただく分科会でした。質問内容は、以下4項目をお伺いしました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 10年で起こった出来事と活動の変化 ② 学生に戻れたらしたいこと（実際に学生時代のお写真を準備してもらった所、参加者からご好評でした。） ③ 大変だったこととその乗り越え方 ④ 直接関係ないと思ったが役に立った経験 <p>学生から社会人の方まで幅広く参加していただくことができた分科会になり、最後の質問タイムでも多くの交流が行われました。</p> <p>海に関わる仕事の魅力や難しさなどをお伺いすることができました。海に関わる仕事をするのは難しいことではあるが、自分が好きなこと・やりたいことは学生のうちからチャレンジし、広い視野で多くのことを経験する重要性を改めて感じるすることができました。</p>	

●今後に向けた意見

- ・参加者同士の交流がなかったので、場を和ませるためや活発に意見が出せる雰囲気作りのために、アイスブレイクを入れてもよかったと思いました。
- ・実行委委員側では、進行、タイムキーパー、zoom録画係、スクショ係と役割が分かれていたため、トラブルも起きずスムーズに進めることができました。



録画機能 西表島エコツアー協会の動画を再生しています オプションを編集

西表島におけるエコツーリズム推進の取り組み

- ガイドの免許制度の導入
 - 「竹富町観光案内人条例」(令和2年4月施行)
- 竹富町西表島エコツーリズム推進協議会の発足(令和元年10月)
- 西表島エコツーリズム推進全体構想の策定
 - 利用ルール、ゾーニング、利用人数の制限
- モニタリング
- 環境協力税導入の検討
- 観光管理を担う新たな組織「西表財団」の設立

観光利用と環境保全のベストなバランスは???

長い年月守ってきた先人たちの知恵、自然と共生する暮らしにヒントが!

河内 遼子 (Amamo Works)
大塚 健司 (エコツアー-あみま)
古瀬 浩史 (徳京科学大学)
奥 海祐 (徳京科学大学)
細田 (ウツキング/ゼンセン)
徳岡 晋英 (西表島エコツアー)
大塚 健司 (あみま/伊豆石)

ミュート解除 ビデオの停止
セキュリティ
参加者 25
チャット
画面の共有
レコーディングを一時的に停止/復元
フレックアトルーム
リアクション
退出

録画機能 古瀬 浩史 (徳京科学大学) の動画を再生しています オプションを編集



河内 遼子 (Amamo Works)
大塚 健司 (エコツアー-あみま)
古瀬 浩史 (徳京科学大学)
奥 海祐 (徳京科学大学)
安西 雅孝 (徳京科学大学)
徳岡 晋英 (西表島エコツアー)
大塚 健司 (あみま/伊豆石)

ミュート解除 ビデオの停止
セキュリティ
参加者 25
チャット
画面の共有
レコーディングを一時的に停止/復元
フレックアトルーム
リアクション
退出

【2020年参加費還元企画「海辺ジャンボ3万円！」報告会】

2020年のフォーラムで得られた参加費収益を、「よりよい海辺につながる活動へのサポート」として、コンペ形式で参加者へ還元しました。2021年のフォーラムでは、サポートを受けた3グループの皆さんにご報告をいただきました。

- ・「海を調べたい！」(手塚@小笠原)
 - ・「沖縄の干潟で活動したい！」(サンゴ守りんちゅ@沖縄佐敷)
 - ・「浦添西海岸を知ってもらおう写真展をしたい！」(鹿谷麻夕@しかたに自然案内)
-

3グループの方に、10分の持ち時間で報告をしていただきました。活動内容の概要を以下に記載します。活動報告書は2022年1月末に提出いただく予定です。

「海を調べたい！」(手塚@小笠原)

小学生による「小笠原の海のことを調べたい」という活動です。録画による報告をいただきました。海を調べる中で、陸上の土地利用との関係に気づいたことに、参加者から反響が多く寄せられました。サポートした費用は試薬などの購入に充てられました。

「沖縄の干潟で活動したい！」(サンゴ守りんちゅ@沖縄佐敷)

当日は佐敷干潟からライブでご報告をいただきました。干潟をアピールするフォトブックを作成したこと、安全な活動のためのファーストエイドキットを購入したことなどをご報告いただきました。

「浦添西海岸を知ってもらおう写真展をしたい！」(鹿谷麻夕@しかたに自然案内)

コロナ禍のため、人を集める写真展企画は延期されましたが、浦添西海岸(ちょうどフォーラムの頃に海岸の名前が市民公募で「ていだ結の浜」に決定)をアピールする写真パネルを作成し、年明け以降に活用していくことをご報告いただきました。

【海辺の環境教育フォーラム 2021 オンライン 事後アンケート結果】

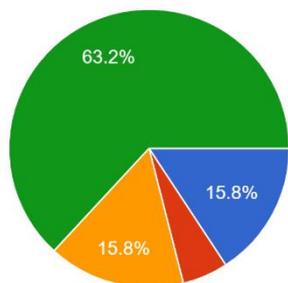
回答期間：2021年12月4日～12月31日

回答方法：主催者から参加者へ Google フォームを送付し、任意で回答

◆参加者の内訳など

ご年代を教えてください。

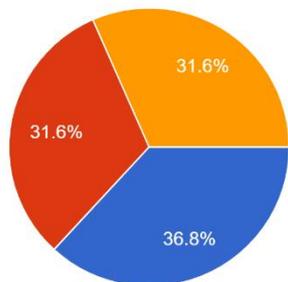
19件の回答



- 学生
- 【一般】10代~20代
- 【一般】30~40代
- 【一般】50~60代
- 【一般】70代以上

何回目のご参加ですか？

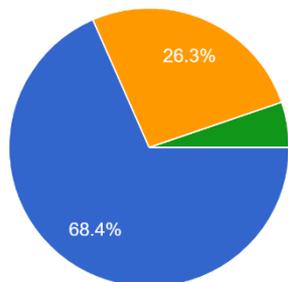
19件の回答



- 初めて
- 2回目~5回目
- 6回目以上

参加費についてお聞かせください。

19件の回答

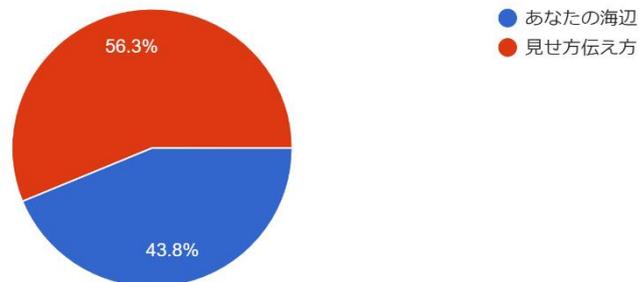


- 適切だった
- 高かった
- 安かった
- 話題提供したので無料にさせていただきました。なので実感がないので...

◆午前のセッションについて

午前のセッションで参加された分科会を教えてください。

16件の回答



【分科会 1】

- ・ 東北で震災後にできた干潟をどう保全するかという提言が良かった。早期退職後に定期的に東京湾で潜っている方の話が同年代なので励みになった。
- ・ ちょっと時間が短かったような
- ・ 海は全国で変化していて、温暖化やプラゴミの影響が大きいと感じられた。多くの人は、海のことを知らないなので、海を見ている我々が海の状況を伝える必要を再確認した。
- ・ 漁業者や海洋の専門職ではなくても、海的环境を定点で観察し続け、変化を気にしている人たちがたくさんいることを心強く思いました。
- ・ 目の前の愛着される海もまた、自然(じねん)なものではなく保全の対象であるという意識で捉えていくべきですね。
- ・ 経験のある人たちから過去から現在に至る海の話を受けて、若い人たちが未来について語ることができたいい場になっていたと思います。
- ・ 経験のある人たちから過去から現在に至る海の話を受けて、若い人たちが未来について語ることができたいい場になっていたと思います。
- ・ 4名の登壇者様から、現在向き合っている「海」の現状を伺いつつ、過去と未来についてお話し戴きました。とても有意義な時間を過ごせました。個人的には、岩手医大の松政先生のお話に共感する部分が多くありました。震災以降、住宅地などが津波で流された後に、元々あった干潟が再び現れた事。一度リセットされた場所から、再び戻った命の繋がりを、どう守り、どのように再生していくのか、それが大事かもしれない。と、云うお話しに感銘を受けました。ありがとうございました。勿論、他の3名の皆さんのお話も素晴らしかったです。

【分科会 2】

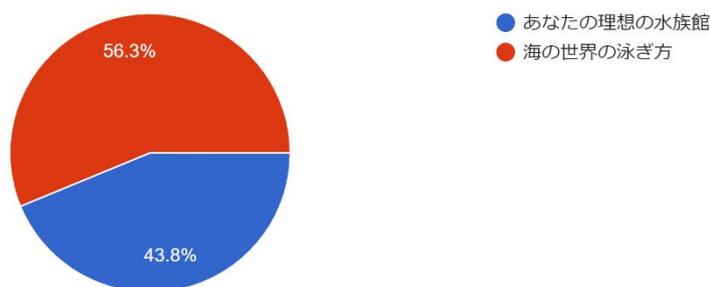
- ・ 見せ方には、ニットなどの芸術やゲーム形式の遊びなどもあることがわかった。

- ・ 編みものアート、想像以上にすごかったです。編みものアートの水族館作りたいですね～
- ・ とても参考になりました。是非教材を使わせていただきたいと思いました。
- ・ 編み物でクラゲをつくりながら、傘の形や触手の数を考える。手を使うのは、紙で説明するよりいいなあ。新鮮でした。
- ・ コロナ禍での苦勞、そしてコロナ禍だからこそその新しい発見について知ることができて面白い機会でした。特に沖縄美ら海水族館の比嘉さんの話が興味深く、これまでオフラインで説明していた時にはなかった評価のフィードバックが、オンラインや有料コンテンツだと把握できるようになったというのは目から鱗でした。また、同じく比嘉さんが「よく見せるポイントとして、解説の時に人が出しゃばりすぎないようにする」とおっしゃっていたのが、非常に考えさせられるなあと思います。というのも、人が楽しそうに、感情を表に出したほうが伝わることもあるでしょうし、一方でそれをうざいと感じる人もいるはず。例えばさかなクンはハイテンションで生物を紹介するので、生物が魅力的であることが知らない人にも伝わりますが、同じようなことを水族館の解説員がやったらいいことなのか？と疑問に思います。本当に新しい気付きのあるイベントだなあと感じました。
- ・ バリエーション豊かな話題で面白かった。
- ・ 海の事を知ってもらうための様々な方法を学ぶ事ができ、自分なら何が出来たらうと考えるきっかけになった。
- ・ 面白そうなブレイクアウトルームが多く、どれに参加するか迷うくらいでした！

◆午後のセッションについて

午後のセッションで参加された分科会を教えてください。

16件の回答



【分科会 3】

- ・ 興味深い内容でした。
- ・ バーチャルの技術の進歩に驚いた。本物の自然にリスクを抱えて行くこともなくなってしまうのではないかと危惧される。理想の水族館は、リアルな海に興味を持ち海に

行くところをゴールとした活動を行ってほしい。（水族館に行くことが、ゴールではなくて）

- ・ VR 導入について、それで代替できる部分の生体展示は、将来的に正当化されないと考えます。いまから議論と対処を進めておくべきでしょう。
- ・ 展示する生き物の命の問題、悩みながらしていることに意義があるように思いました。
- ・ 問題点なのかわかりませんが、話題提供の3名のうち、村山さんだけ毛色が違うなど感じました。河合さんと古川さんが水族館の展示の話であるのに対し、村山さんが水族館飼育動物の研究の話だったので、いい意味ではいろんな話が聞ける、悪い意味では軸がぶれると思いました。中身については非常に興味深い内容で、特に古川さんの「命の教育」というフレーズ、そして対する河合さんのバーチャルの展示の対比がなんとも考えさせられるものでした。よくいえば制約がない、悪く言えば偽物の展示をするライトアニマルと、かたや命を消費する代わりに命そのものを伝えるふれあいの展示という、真逆の展示について、その一長一短に向き合う時期が来たんだなと思えます。

【分科会 4】

- ・ それぞれの方の海へのつながりが印象的だった。
- ・ 学生さんたちが、自分の将来を考えるヒントを得たいという、企画のアイデアがすばらしかった！！ その問いに答えた大人たち（発表者）の生き方と、経験にもとづいた若者たちへのメッセージがまた、すばらしかった！！ 進行もとてもよかったです。若い人たちの姿に、心が洗われるようでした。
- ・ 当フォーラムでも顔なじみのお三方から、海に関わる様になったきっかけと、ご自身の活動についてお話を伺いました。発表の中で、お三方のお若い頃の写真を拝見する機会があって、それは皆さん輝いていらっやあって、自分も若い時を思い出しました。自分はずっと釣りは好きでしたが、海の活動をする。仕事にする。と、云う事は、正直、30代のはじめまで考えた事ありませんでしたから、皆さんの熱量が少し羨ましくもありました。只、後発でも気付いた事で、今があり、こうして海の活動（仕事）ができている事に改めて感謝だなあ。って、思いました。ありがとうございました。
- ・ 海の体験プログラムをしている方たちきっかけや課題をどう乗り越えたかの話を聞いて、自分の将来にも参考になった。
- ・ みなさんの素敵な経験談を聞かせていただき、好きのエネルギーや人との繋がりの大切さを感じました。
- ・ 海で食っていく。ファンタジー+したたかさ。勉強になりました。
- ・ いま活躍している人のこれまでの道のりの話を聞いてよかった。学生のインタビュー形式も聞いていて新鮮な感じがした。

- ・ 海の仕事に関わっている方の来歴を知る事で、自分が決断するべき時に使える情報が増えたように思えた。
- ・ 八重山で活動されている方がお二人いらっしまったのでとても興味深かった。仕事が忙しく直接お会いしてお話お伺いしたいと思いつつできていないが、色々な経験を経て今に至っているというお話や、これまでの経験は生きるという話は共通していて、私自身は別の角度から少し勇気づけられた。ぜひ時間作って直接お伺いしたいなと改めて思った。

◆今後のフォーラムについて

今後も「海辺フォーラム」に参加したいと思われますか？

18件の回答



【上記の理由について】

- ・ 楽しい
- ・ なかなか足を運ばせてはいただけないかもしれませんが、内容的には関心があります。
- ・ 刺激になります！ 世代を超えた交流がいい意味での村社会みたいで魅力的です。
- ・ オンラインにはオンラインの良さとして、家から手軽に参加できるというメリット、オフラインなら直接会って、時には手に取ったりしながら学んだり考えられるというメリットがあり、どちらが優れているというものではないので。
- ・ とても良い経験になりました！
- ・ 場所によって現地に行くかどうかを自分とのつながりの度合いで決めると思います。
- ・ やはり近場であれば現地に行けるが、そうでない場合は、オンラインが有効な手段となります。基本現地開催を模索しながら、どちらでも参加可能になると有り難いですね。
- ・ 魅力的な人たちと出会えるから
- ・ もし当日現地参加できない場合に、オンラインでも見学したいから。
- ・ リアル海辺もいいけど、実行委員が沖縄と北海道、なんてのはオンラインならでは。どちらもいい。
- ・ 参加者同士のつながりができる、若い人たちに経験を伝えられる。

- ・ 忙しかったりする場合、現地まで行く時間がないかもしれないから。
- ・ リアルに参加したいのが第一希望であるが、石垣在住で役所の仕事や別の手伝いもしている関係で、スケジュール上難しそうなので。
- ・ コロナ禍にあって、遠隔でのイベント参加のメリットを実感しました。顔を合わせて話す重要性を担保したうえで、オンラインでの自由な参加ができる環境を整えるとより多様な方々の参加が見込めると思います。
- ・ 参加されている皆さんの笑顔に刺激を受けました。大学の研究室に所属していますが、もっと心から楽しんで活動できる場が欲しいと思いました。
- ・ 海フォの応援団です。

【今後扱って欲しい話題】

- ・ 水中の音について
- ・ 行政区分ひいては国境まで超えてつながるのが海なので、保全に限りませんが、何かそういう存在としての海を取り扱っていただくことを期待します。
- ・ 漁業についての話が少ない気がするので聞いてみたいです。
- ・ 身近な自然、海ゴミを使ったアップサイクル
- ・ 今回も、環境教育では食えないー。と、云う自分も直面している話しが出ました。なので、きちんと生活できるレベルにするにはどうしたら良いかー。と、云う方法論だけではなく、実際に企業や学校や、役所も巻き込んでスカウティングや、「仕事」に繋がる機会や、場ができたらいいなと思います。こんなに素晴らしい人材がたくさんいるのに、機能できていない現状を打破したいですね。
- ・ 海辺の生き物にとって暮らしやすい環境（人間の都合ではなく、生き物の目線で）
- ・ 干潟、日本海、著作権
- ・ 海ごみ問題の新しい話題、気候変動と海、教材作りワークショップ
- ・ 魚食普及
- ・ 軽石の今後の状況や、SDGs の取組状況、各地の世界自然遺産登録後の課題など
- ・ 環境教育を受けている人、小中高生の意見をダイレクトに聞きたいです。
- ・ 4～5 歳くらいの子どもと親御さんが参加する海洋学習プログラムについて

◆その他、感想など

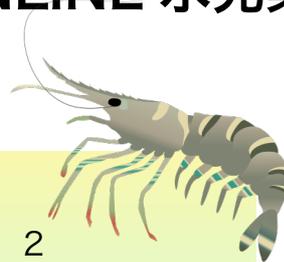
- ・ 来年もよろしくおねがいします。
- ・ 皆さんと交流できる時間を作ってください、ありがとうございました。
- ・ いろいろ学ばせていただきました。ありがとうございます。
- ・ 実行委員会のみなさま、ありがとうございました！お疲れ様でした！！

- ・ 大変有意義な時間をありがとうございました。たった1000円でここまで考えさせられるイベントはなかなかないです。運営メンバーの皆様に心より感謝しております。ここでの学びが将来に生かされるとなおいなと思います。自分がただ知識を増やして自己満足で終わりになるのではなく、ここでえた学びを広めたり、ほかの人と話したり、記録に残したりして次世代に伝えたいです。
- ・ 司会者／進行係の皆さんが話上手です。また、発表者と参加者がフラットな関係が良いと思います。人の話を聞くように等の最初の注意事項が結構大切かもしれません。その人の話を聞くとか話を簡潔にとかのスピリットが20年続いた原動力の一部でしょう。女性が多数参加し活躍しているところが良いです。
- ・ 海のことを思う仲間がたくさんいることの温かさ、つながれる幸せをつくづく感じました。実行委員のみなさま、ご苦勞が多かったことと思いますが、素晴らしいフォーラムを開催してくださり、本当にありがとうございました！！おつかれさまでした～。
- ・ 今回は、学生実行委員会の皆さんの若い力に期待しながら参加しました。本当にお疲れ様でした。皆さんの熱は十分に伝わって来て頼もしく思いました。そこに大人がどんな風に関わって、どう彼らを導いていくのか、お互いに学び合えた時間が嬉しかったです。でも、お話しできなかったメンバーさんもいたので、どこかでフリートークしたかったなあ（笑）
- ・ はじめての参加でとても緊張しましたが、実行委員のみなさんをはじめ、参加者の方たちもとても和やかで、いろいろなお話を聞けて楽しかったです。ただの海好きな自分にも、とても貴重な時間でした。ありがとうございました。
- ・ とてもとても楽しかったです。実行委員のみなさま、おつかれさまでした。ありがとうございました。
- ・ 学生実行委員のみなさん、とても良かったです。お疲れ様でした、ありがとうございました！
- ・ とても楽しむ事ができました。
- ・ 今回は前半は島言葉検定試験があったりで参加できず後半だけでしたが、更に色々お話聞きたいなと思いつながら聞いておりました。昨年初めて参加し全くの素人というのは変わってありませんが、こういった活動続けていかれている方々の話はとても良いな、他の人にも興味もってもらいたいなあと改めて感じました。別件が入っていて、懇親会には参加できないのですが、また参加させて下さい。ありがとうございました。
- ・ 午前中しか参加できませんでしたが、多様な立場の方と話ができて非常にためになりました&楽しかったです。
- ・ 次回の開催に向けて、スタッフ募集などのご連絡をいただくとありがたいです。

[添付資料]

参加者配布資料

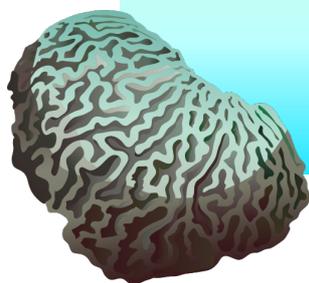
海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE 水先案内



1. 水先案内人からのお願い・・・・・・・・・・ 2
2. 開催日時・参加方法・・・・・・・・・・ 3
3. タイムテーブル・・・・・・・・・・ 5
4. プログラム紹介・・・・・・・・・・ 6
5. 分科会登壇者紹介・・・・・・・・・・ 8

別添1 Zoom の使用方法・・・・・・・・・・ 16

別添2 開催概要・・・・・・・・・・ 17



海辺の環境教育フォーラムは、毎回有志が集まった実行委員会が運営しています。実行委員たちは水先案内人と呼ばれ、みなさんと一緒にフォーラムを盛り上げ、楽しむためのお手伝いをしています。そして水先案内人も含め、フォーラムの参加者全員が乗組員です。

みんなで、楽しみあい、学びあい、出会いをつなげて、新たな船路を進みましょう！

～～乗組員の心得～～

人の話は最後まで聞こう！

どんな意見も肯定的に聞こう！

たくさんの人の話を聞こう！

自分の発言は簡潔にしよう！

自分自身の言葉で話そう！



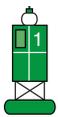
今年のテーマ



十年一昔（じゅうねんひとむかし）という言葉があります。海の様子、そして人と海の関係は、10年前から今日までにどう変わって・あるいは変わらずにいるのでしょうか。

ひと昔前といま、そして「ひと未来」。

今年は海辺の環境教育フォーラムがスタートして20周年の節目です。これまでの20年で変わったこと、そしてこれから先の人と海の関係がどうなるか、どんなふうになりたいか、みんなで考えてみませんか。



1. 水先案内人からのお願い

◆録画、画像の使用について

- 本フォーラムは録画し、後日、申込者限定・期間限定で公開します。
- 海辺の環境教育フォーラムの web サイト、Facebook 等のソーシャルメディアに、実施の様子を写真等で掲載します。
以上、支障のある方は、適宜ビデオオフにさせていただく等の対応を各自お願いいたします。
- 開催中の zoom 画面や共有された資料の画像を、SNS など不特定多数から見える場に共有しないようお願いいたします。

◆Zoom リンク等の取扱いについて

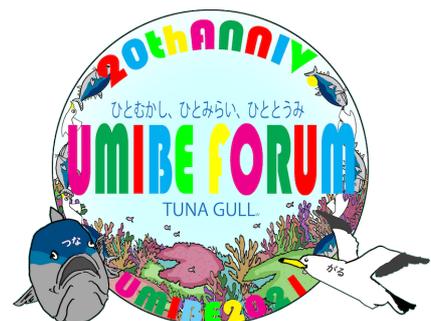
本フォーラムは事前申し込み制の有料イベントのため、Zoom リンク、パスコード等は申込者のみにお知らせしています。他の方にはお伝えしないようお願いいたします。

◆参加者名簿について

オンライン開催だと名刺交換等の参加者同士の交流ができないため、その代わりに事前に参加者名簿をお送りしています。分科会内でのディスカッションや、web 飲み会などお互いに話ができる時間もありますので、ぜひこの名簿もご活用ください。

なお、この名簿は本フォーラムでの情報交換のみを目的に配布しておりますので、むやみに第三者に見せないようお願いいたします。

フォーラム中、水先案内人は Zoom 画面の背景にロゴマークが入っています。こちらを目印に、何かあればお気軽にお声がけください。





2. 開催日時・参加方法

日時： 2021年 12月4日（土） 10:00～16:00 （web懇親会 19:00～）

参加方法： Zoomを使ったオンライン開催
（Zoomの基本的な使い方については別添1をご覧ください。）

Zoom会場は2つあります（部屋1、部屋2）。開催時間になりましたら、希望の部屋にアクセスして、ご参加ください。

（方法1）「3. タイムテーブル」に記載されている、各部屋のURLをクリックする。

（方法2）Zoomのウェブサイトにある「ミーティングに参加する」から、ミーティングIDを入力する。（<https://zoom.us/join>）

- 方法2では、入室時にパスコードの入力も必要になります。
- 分科会開催中は、他分科会への移動はご遠慮ください。

【海辺フォーラム 2021 ONLINE 開催中のお願い】

(1) 名前の表示

「氏名（所属または地域）」に変更してください。変更方法は当日の冒頭にご案内します。

(2) ビデオはON

話題提供者やファシリテーターがみなさんの顔を見て進行できるように、またお互いにコミュニケーションがとりやすいように、ぜひビデオはONでご参加ください。
もちろん通信状況等でやむを得ない場合は、音声のみの参加でも構いません。

(3) 音声のミュート

全体の会などでは、音声はミュートでご参加ください。また主催者や進行の操作で、みなさんをミュートにさせていただく場合があります。

(4) 発言したい時は？

手を挙げたり、「反応」の挙手ボタンを使ったりしてお知らせください。進行が指名した後、各自でミュートを解除してお話してください。

(5) ブレイクアウトルームになった時は？

分科会によっては、少人数のグループに分かれて話をする「ブレイクアウトルーム」を使用することがあります。進行がご案内しますので、画面にブレイクアウトルームへの参加を知らせる表示が出たら、「参加」を押してお待ちください。その後、画面が変わったら、ミュートを解除してみなさんでお話してください。

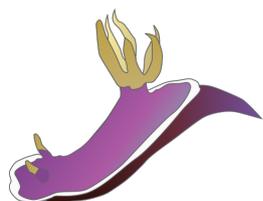
(6) 途中で間違って退出してしまった／通信が切れてしまった時は？

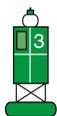
その時に参加していた会場のリンクに再度アクセスしてください。同じ会場にまた入室することができます。

操作方法が不安なので確認したい、また当日入室できないなど、Zoom 操作についてお困りの場合は、実行委員会事務局のメールアドレス (umibe2020@gmail.com) へご連絡ください。

※アドレスの数字は「2021」ではありません。ご注意ください！

参加申込者の方限定で、後日、各分科会の録画を公開します（期限は来年 3 月頃までの予定）。参加できなかった分科会の様子も、録画でご覧いただけます。ただし、一部都合により、録画公開ができない部分があります。ご了承ください。





3. タイムテーブル

★最初は全員「部屋 1」に集合してください！！（9：50 から入室できます。）

	部屋 1	部屋 2
Zoom の URL ミーティング ID パスコード	https://us02web.zoom.us/j/81104200532?pwd=SlhiQ3ozY2NqOVNrWnQyRzZHhH1dz09 ミーティング ID: 811 0420 0532 パスコード: 718866	https://us02web.zoom.us/j/85691962794?pwd=ZitDTEY3UfNzd1dwQTh6MVNuclUzd09 ミーティング ID: 856 9196 2794 パスコード: 826427
10:00～	開会、アイスブレイク	—
10:30～12:00 分科会(午前の部)	分科会 1 「あなたの海辺ーいま、むかし、これから」	分科会 2 「海や生き物の見せ方伝え方は無限大！」
12:00～13:30	休憩	—
13:30～15:00 分科会(午後の部)	分科会 3 「私の、あなたの理想の水族館」	分科会 4 「伝えたい 知りたい 海の世界の泳ぎ方」
15:00～15:10	休憩	
15:10～15:40	海辺ジャンボ報告会	—
15:40～16:00	振り返り、閉会	—

	大部屋
19：00～ web 懇親会	https://us02web.zoom.us/j/84876207097?pwd=Tjlqc2o5ZzEzR0szeFJiYlAlbm1ydz09 ミーティング ID: 848 7620 7097 パスコード: 895784



4. プログラム紹介

◆オーガナイザー（学生実行委員）

●話題提供者（敬称略）

分科会（午前の部） 10：30～	
部屋 1	あなたの海辺—いま、むかし、これから
	<p>この 10 年、みなさんの生活はどのように変化してきたでしょうか。生活だけではなく、海辺の環境の変化を感じ取っている方も多いと思います。昔といまの海辺の姿を写真で見比べながら、みんなで未来の海の姿を描く 90 分。海辺のためにしてきたこと、していること、していきたいことをシェアしませんか。</p> <p>◆安西雅季（帝京科学大学生命環境学部）、田中奏子（サンシャインコースト国立大学） ●飯嶋修（一般財団法人休暇村協会）、神田優（黒潮実感センター）、松政正俊（岩手医科大学）、山本徹（日本水中科学協会）</p>
部屋 2	海や生き物の見せ方伝え方は無限大！
	<p>海や生きものに興味を持ったきっかけは？どんな方法で伝える？…水族館、編み物、Web で伝える取り組みを紹介し、皆様の楽しい経験やアイデアを交換する 90 分。新たな興味や発見が生まれるかもしれません☆！</p> <p>※分科会内で、各登壇者の小部屋に分かれます。その際、Zaoricknitknit さんの小部屋では海の生きものを編むワークショップを行います。この時間に実際に編んでみたい方は、かぎ針（6号）と毛糸（並太）をご用意ください（100円ショップなどでも手に入ります）。未経験者 OK、見るだけ聞くだけの参加も OK です。</p> <p>◆村岡秀（帝京科学大学生命環境学部） ●伊東久枝（海の環境教育 NPO bridge）、植月沙織（ZAORICknitknit）、比嘉明日香（一般財団法人 沖縄美ら島財団）</p>

分科会（午後の部） 13：30～	
部屋 1	私の、あなたの理想の水族館
	<p>みなさんの「理想の水族館」はどんなところですか？「こんな水族館にできる？」「この展示が発展するとどうなる？」「生きものともお話しできる？」未来の水族館の展示や教育での活用について一緒に考えましょう！</p> <p>◆村岡秀、由井沙帆子（帝京科学大学生命環境学部）、田中奏子（サンシャインコースト国立大学） ●河合晴義（LightAnimal）、古川健（ふくしま海洋科学館）、村山司（東海大学）</p>
部屋 2	伝えたい 知りたい 海の世界の泳ぎ方
	<p>海の世界（海に関わるお仕事）へこれから泳いでいくには何が必要？オトナの皆さんはどのようにして泳いだのか。これまでのこと教えてください。そして、これからのこと一緒にお話ししましょう。参加者のみなさんも伝えたいこと知りたいこと持ち寄りませんか？みんなで海の世界をのぞきましょう！</p> <p>◆安西雅季、興海佑（帝京科学大学生命環境学部） ●大堀則子（わくわくサンゴ石垣島）、徳岡春美（西表島エコツーリズム協会）、古瀬浩史（帝京科学大学）</p>

特別企画 15:10~	
部屋 1	海辺ジャンボ報告会
	<p>海辺の環境教育フォーラム 2020 オンラインの参加費から必要経費を除いた収益を、未来のよりよい海辺につながる活動への応援資金として還元する企画として、「海辺ジャンボ 3 万円」を実施しました。5 名の応募者の皆さんに、フォーラム当日、参加者の皆さんに向けて 1 分間のプレゼンをしていただき、Zoom の投票機能を使ってその場で上位 3 組に助成を決定しました。今年のフォーラムでは、2021 年 12 月の助成期限を前に、活動の報告をしていただきます。(ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動が思うようにできなかったグループについては、助成期間の延長を検討しています。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「海を調べたい！」(手塚@小笠原) ● 「沖縄の干潟で活動したい！」(サンゴ守りんちゅ@沖縄佐敷) ● 「浦添西海岸を知ってもらおう写真展をしたい！」(鹿谷麻夕@しかたに自然案内)

懇親会 19:00~	
大部屋	自由参加の web 懇親会！
	<p>お手元に飲み物やおやつなどを用意してご参加ください！途中参加・退出自由です。まずは大部屋に集まってください。その後でブレイクアウトルームに分け、好きなところに参加していただきます。</p> <p>各ブレイクアウトルームにどんな人が参加しているかは移動前に見ることができます。また、ブレイクアウトルーム間の移動も自由です。</p>

- 終了後、参加者アンケートへの回答にご協力お願いいたします。
運営のふりかえりとする他、各分科会担当者へのフィードバックとさせていただきます。
皆様からの感想、ご意見お待ちしております。
ご回答くださる方は、2021 年 12 月 31 日（金）までをお願いいたします。

アンケート回答フォーム

<https://forms.gle/XsQXdMZeofbuR1c87>



5. 分科会登壇者紹介

10:30~12:00 部屋1

【分科会1】あなたの海辺 – いま、むかし、これから –

この10年、みなさんの生活はどのように変化してきたでしょうか。生活だけではなく、海辺の環境の変化を感じ取っている方も多いと思います。昔といまの海辺の姿を写真で見比べながら、みんなで未来の海の姿を描く90分。海辺のためにしてきたこと、していること、していきたいことをシェアしませんか。

オーガナイザー：安西 雅季（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）

田中 奏子（学生実行委員 / サンシャインコースト国立大学）

■ 飯嶋 修さん（一般財団法人 休暇村協会 / 休暇村 指宿 支配人）

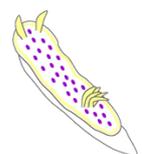
タイトル：鹿児島島の海のように 休暇村指宿の海的环境教育プログラム

国立、国定公園内では、日本最大規模で宿泊事業やキャンプ場の経営を行っている休暇村協会で働いています飯嶋です。日本各地の海の国立公園の休暇村を転勤しながら、シーカヤックとシュノーケルで海の観察と環境教育体験プログラムを実施してきました。9年前に鹿児島県のレインボー桜島に転勤し、現在は鹿児島県休暇村指宿の支配人のかたわらカヤック、シュノーケルのインストラクターで年間200名位の参加者を集めて体験講習を実施しています。

国立公園は超過疎地域で安定した仕事がないのですが、都会を離れ、豊かな自然の中で働きたい、暮らしたい、自然の素晴らしさを、現地から多くのお客様へ伝えたいと思う生き物大好き理系の若者へ、就職の斡旋を行います。ユーチューブで国立公園ライフを発信中です。

国立公園ライフ（動画） <https://www.youtube.com/channel/UCAqN4VV9abxC7OwrD9UgN4A>

フェイスブック <https://www.facebook.com/osamu.ijijima>



■ 神田 優さん（NPO法人 黒潮実感センター）

タイトル：人と自然が織りなす里海の風景

高知県西南端に位置する周囲3.9kmの柏島。船が宙に浮かんでいるように見えるほどの高い透明度と、その数日本一の1,150種以上の魚類が生息する柏島は、過去には湾内の定置網でマグロを捕っていた漁業の島でもあります。

人のくらしと海とが密接に結びついた里海としての柏島の海辺の風景の今と過去、そしてこれからを写真で紹介します。

NPO法人 黒潮実感センター <http://www.orquesta.org/kuroshio/>

■ 松政 正俊さん（岩手医科大学 教養教育センター 生物学科）

タイトル：岩手の河口・干潟のいま、むかし、これから

岩手県・三陸海岸の湾奥にある河口や干潟の今と20年程前の様子を写真で紹介し、これからの海辺がどうあって欲しいか考えます。主に津軽石川（宮古市）と織笠川（山田町）の河口・干潟について現在・過去の比較を行い、それらの例を参考にして高田松原海岸・古川沼（陸前高田市）のこれからについてお話ししたいと思います。

岩手生態学ネットワーク <https://sites.google.com/site/ecologyiniwate/>

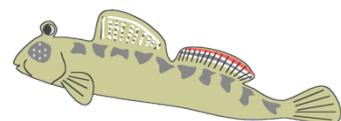
■ 山本 徹さん（日本水中科学協会 JAUS）

タイトル：お台場の今と昔

お台場潜水はJAUSの東京港水中生物研究会と東邦大学 東京湾生態系研究センターとで毎月1回、最終日曜日に開催されています。

1996年に始まり、オリンピックなどで中断はありますが今も潜り続けています。

スガジロウのダイビング <https://jsuga.exblog.jp/i22/>



10:30~12:00 部屋2

【分科会2】海や生きものが見せ方伝え方は無限大！

海や生きものに興味を持ったきっかけは？どんな方法で伝える？水族館、編み物、…Webで伝える取り組みを紹介し、皆様の楽しい経験やアイデアを交換する90分。新たな興味や発見が生まれるかもしれません！☆

※分科会内で、各登壇者の小部屋に分かれます。その際、Zaoric Knit Knitさんの小部屋では海の生きものを編むワークショップを行います。この時間に実際に編んでみたい方は、かぎ針（6号）と毛糸（並太）をご用意ください（100円ショップなどでも手に入ります）。未経験者OK、見るだけ聞くだけの参加もOKです。

オーガナイザー：村岡 秀（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）

■ 伊東 久枝さん（特定非営利活動法人 海の環境教育 NPO bridge）

タイトル：海の教材が無料でダウンロードできる 海洋学習教材サイト「LAB to CLASS」をもっともっとひろめたい!!

海洋学習教材サイト「LAB to CLASS」を公開してから5年。でも、そのまま使えるのに、使い方も紹介しているのに…まだ十分普及している感じがしない。この海辺フォーラムの知見を結集した教材なのに～もったいない！分科会では代表教材の概要とコロナ禍での取り組みをご紹介した後、発展のアイデアを皆さんからお聞きしたいと思います。

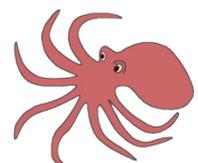
LAB to CLASS <https://lab2c.net>

■ ZAORIC（ザオリク）さん（ZAORICknitknit ザオリク ニットニット）

タイトル：かぎ針編みで作る海の生き物たちワークショップ

沖縄でニットクリエイターをしているザオリクです。私がかぎ針編みで制作した海の生き物などをご覧いただき、海の生き物をリアルに編むときの生態観察の仕方などをお伝えしたいと思います。今回はかぎ針編みで作るクラゲのワークショップも開催致します。ご参加される方はかぎ針6号と並太のお好きな毛糸をご準備ください。

面白い方の編み物 ZAORIC KNIT-KNIT <https://zaoric-knitknit.me/>

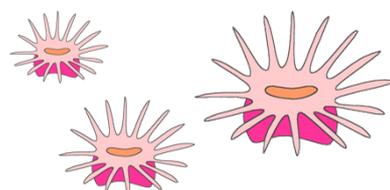


■ 比嘉 明日香さん（一般財団法人 沖縄美ら島財団）

タイトル：コロナ禍で変化した教育普及の取り組みについて

2020年から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により、沖縄美ら海水族館も臨時休館を余儀なくされました。その中で水族館として、解説員として、お客様に還元できることは何か？過去最大のピンチをチャンスと捉えたことで、様々な新しいサービスが誕生しました。オンラインを活用したプログラムなど新たな取り組みをご紹介します。

沖縄美ら海水族館 <https://churaumi.okinawa>



13:30~15:00 部屋1

【分科会3】 私の、あなたの理想の水族館

みなさんの「理想の水族館」はどんなところですか？「こんな水族館にできる？」「この展示が発展するとどうなる？」「生きものともお話しできる？」未来の水族館の展示や教育での活用について一緒に考えましょう！

オーガナイザー：村岡 秀（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）

由井 沙帆子（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）

田中 奏子（学生実行委員 / サンシャインコースト国立大学）

■ 河合 晴義さん（ライトアニマル LightAnimal）

タイトル：デジタル動物展示がもたらす可能性

生体を用いた動物展示には多くの制約や限界があります。それらを解決するのがデジタル映像技術です。我々が開発しているデジタル動物展示システム「ライトアニマル」を例として、デジタル映像による動物展示のブレイクスルーについてお話しします。水族館の未来について、一緒に考えてみませんか。

Light Animal <https://www.lightanimal.net/>

■ 古川 健さん（ふくしま海洋科学館 館長）

タイトル：アクアマリンふくしまが開催している水生生物とのふれあいとその意義

アクアマリンふくしまにある淡水のビオトープ「BIOBIOかっぱの里」と海水のビオトープ「蛇の目ビーチ」では、春から秋には、常時、水に入り生物を手にとって観察できます。また、当館が所有する移動水族館専用車「アクアラバン」にはタッチプールがあり、触れ合う機会を提供しています。その事業内容の紹介と生物に触れさせることの意義を説明します。

アクアマリンふくしま 移動水族館 <https://www.aquamarine.or.jp/education/aquaravan/>

■ 村山 司さん（東海大学 海洋学部 海洋生物学科）

タイトル：いつかイルカと話す日

複雑な社会性を持つイルカ類は高度な知的特性を有していますが、そのなかでシロイルカの「ナック」を対象として行っている言語理解の研究について紹介します。

ナックの言語（名詞）の習得にはヒトと共通な過程が見られ、また、ヒトの言葉を模倣することもできます。いつかそんなナックと言葉を交わせる日が来るかもしれません。

13:30~15:00 部屋2

【分科会4】伝えたい 知りたい 海の世界への泳ぎ方

海の世界（海に関わるお仕事）へこれから泳いでいくには何が必要？オトナの皆さんはどのようにして泳いだのか。これまでのこと教えてください。そして、これからのこと一緒にお話しましょう。参加者のみなさんも伝えたいこと知りたいこと持ち寄りませんか？みんなで海の世界をのぞきましょう！

オーガナイザー：安西 雅季（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）
興 海佑（学生実行委員 / 帝京科学大学生命環境学部）

■ 大堀 則子さん（わくわくサンゴ石垣島）

タイトル：出会ってつながった！海辺の環境教育@石垣島

自然や生き物が好きだった私は大学で海洋生物を学び、卒業後は東京の水族館に就職。結婚と出産を機に石垣島に移住し、エコツアーと環境教育の二足のわらじを履いて歩きます。気付くとあっという間に20年。大切なのは人とのつながり、ピンチをチャンスに変えるポジティブ思考でした！

わくわくサンゴ石垣島 <https://sango.wakuwaku35.net/>

■ 徳岡 春美さん（特定非営利活動法人 西表島エコツーリズム協会）

タイトル：ヤマナ・カーラ・スナ・ピトゥ（ヤマ・カワ・ウミ・ヒト）

西表島には豊かで美しい山・川・海があり、そこに様々な生き物と共に人が暮らしています。今年、世界自然遺産に登録され、これまで先人たちが守ってきた自然と人の暮らしのバランスを、どう維持していくか？海の専門家でも何でもない私が今向き合っていることや、これまでの取り組みをご紹介します。

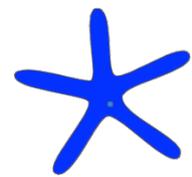
西表島エコツーリズム協会 <https://www.iriomote-ea.com>

■ 古瀬 浩史さん（帝京科学大学 / 海辺の環境教育フォーラム事務局）

タイトル：海辺の環境教育よろず相談所

海辺の環境教育フォーラムが今年で20年。通年事務局としてこれまでどんなことをやってきたのか、どんな転機があったのか。学生のうちにどんなことをやっておくと面白い？そんな海辺のあれこれを皆さんとお話しましょう！

海辺の環境教育フォーラム <https://umibef.com>



<別添1>

Zoom の使用方法

【Zoom 使用の基本】

- ・充電をしっかりと または 電源をつないで使おう。
- ・Wifi が十分入るところ、または有線をつなげば、ビデオ通話もストレスフリー。
- ・パソコンからだと、リンクをクリックすれば自動的にアプリをダウンロード。
すでに使っている人も、最新版にアップデートをお忘れなく。↓下記リンク先参照
(<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362233>)
- ・スマホやタブレットは、事前に無料アプリをインストールしてから、リンクをクリック。
(アプリストアで“Zoom”を検索。)

【こんな機能も！】

投票、挙手や拍手などの「反応」ボタン、チャットなど、オンラインミーティングをより豊かにしてくれる機能がたくさんあります。各分科会の進行が勧めた場合には、ぜひ各機能を使ってみてください。

操作方法にどうしても不安がある場合は、実行委員会にご相談ください(4ページをご覧ください)。

【参考サイト】

- ・Zoom の使い方を徹底解説 ビデオ会議の開催・参加方法など

<https://mag.app-liv.jp/archive/127633/>

- ・バーチャル背景の設定方法

https://symphonict.nesic.co.jp/workingstyle/zoom/virtual_background/

- ・スピーカービュー（発言者が見える）／ギャラリービュー（みんなの顔が見える）の切替方法

https://zoom-school.info/chage_of_views/

<別添2>

開催概要

- 主催：海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE 実行委員会
(共同実行委員長：河内直子・鹿谷麻夕)
- 後援：公益社団法人 日本環境教育フォーラム (JEEF)
特定非営利活動法人 日本安全潜水教育協会 (JCUE)
一般社団法人 日本インタープリテーション協会
- 日時：2021年 12月4日 (土) 10:00~16:00
- 場所：オンライン (Zoom)
※ 各分科会は、申込者限定で後日録画視聴可能 (一部録画公開できない部分を除く)
- 内容：事例紹介、ワークショップ、ディスカッションなど。
- 対象者：環境教育関係、観光業者、教員、研究者、学生、海や環境教育に関心のある方
- 定員：100名
- 参加費：1,000円 (高校生以下無料)
- オフィシャルメディア
Twitter <https://twitter.com/UmibeF>
Instagram <https://www.instagram.com/umiforum/>
Facebook <https://www.facebook.com/umibeforum>
公式 web サイト <https://umibef.com>
- お問い合わせ先
海辺の環境教育フォーラム 2021 ONLINE 実行委員会事務局
umibe2020@gmail.com (数字部分は「2021」ではありません。ご注意ください)

おわりに

2020年、新型コロナの1年目。多くのイベント企画が流れ、エコツアーや自然体験に関わる人々には仕事のキャンセルの波が押し寄せました。教育に携わる人々は、授業のオンライン化というこれまでにない仕事に追われる一方、学生たちは登校できず、友人とも会えずに画面越しの授業を受ける日々でした。そんな中、これまで1～2年に1度のペースで全国のどこかを会場に集まってきた「海辺の環境教育フォーラム」を、初めてオンラインでやってみよう、という声が上がりました。手を挙げた実行委員同士の打ち合わせも全てオンライン上で企画を練り、実地でのフォーラムに引けをとらない2日間のプログラムを成功させました。

オンライン上とはいえ、参加した「海でつながる仲間たち」とたくさんの言葉を交わし、お互いが繋がる「場」の重要性を改めて感じる中で、「次はどこかで、実地開催を！」と誰もが想像していたと思います。

ところが、2年目もコロナは止みませんでした。前年の実行委員だった北海道の河内さんと沖縄の私との個人的な会話の中で、規模が小さくても良いから、繋がる「場」を継続させたい、そして、人と会い多様な体験を増やすことが難しい中で海を学んでいる学生のみなさんに、海で活動する大人と繋がる機会を作ること大事だよ、という話から、ミニフォーラムやろう！となったのが、今回の発端です。

開催を1日に縮め、シンプルに行こうと考えていましたが、学生実行委員からはこの話題をやりたい、この人の話も聞きたい！と多様な要望が上がり、結局4つの分科会に何とか（無理やり？）収めて開催されました。ご参加の皆様、いかがだったでしょうか？

少し実行委員のみなさんを褒めさせてください。海と環境教育のキーワードで繋がってくれた帝京科学大学の興さん、村岡さん、由井さん、安西さん。授業や就職活動などで忙しい中の時間を割いて、企画運営の中心を担ってくれました。サンシャインコースト国立大学の田中さん。本当ならオーストラリアで学んでいるはずなのに、日本で過ごさざるを得ない状況の中で、帝科大のみんなと一緒に積極的に意見を出し、企画を引っ張ってくれました。社会人側では武田さん。大学教員の超多忙な中を縫って、実行委員のフォローをきめ細やかにしてくれました。宮本さん。こちらも超多忙な中、常に本質的で切れ味のある議論を学生たちと交わし、企画の質を高めてくれました。福成さんはオランダから、本番は時差の関係で参加が難しい中、裏方としてウェブ関係や文書作成などに尽力してくれました。田副さん。ロゴが欲しいと聞くや速攻で「つな・がる」を描き、ミーティングでも常に場を和ませつつ話の舵取りをサポートしてくれました。大堀さんと古瀬さん。仕事が忙しくてなかなかミーティングに参加できなくても、ここぞという時には二つ返事で実行委員を支えてくれました。そして共同実行委員長の河内さん。常に全体を見渡し、メンバーへの声かけを怠らず、去年の経験を持って確実に準備を進め、当日を安心して迎える

段取りを整えてくれました。私・鹿谷は、そんな皆さんの動き方をひたすら信頼して眺めておりました。ここには素晴らしいチームがありました。

オンライン・フォーラムにはいろいろな制約がありますが、遠方同士が気軽に繋がり合える利点が大きいという実感があります。今回、海辺フォーラムの開催 20 周年を実地で華々しく行うことは叶いませんでしたが、これからは、実地とオンラインのハイブリッドなど、さらに進化した方法も生まれてくるでしょう。次の海辺フォーラムが、いつ、どんな形になるかは未定ですが、皆さんと再び顔を合わせる機会が訪れることを楽しみにしています。

関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。
またどこかの海辺でお会いしましょう！

2022 年 1 月
共同実行委員長 鹿谷 麻夕@沖縄

【実行委員会】

共同実行委員長

河内 直子 (Amamo Works)

@北海道厚岸

鹿谷 麻夕 (しかたに自然案内)

@沖縄本島

実行委員 (50 音順)

安西 雅季 (帝京科学大学・学生)

@山梨県

大堀 健司 (エコツアーふくみみ)

@石垣島

興 海佑 (帝京科学大学・学生)

@山梨県

武田 美亜 (青山学院大学)

@神奈川県・東京都

田中 奏子 (サンシャインコースト国立大学・学生)

@オーストラリア・群馬県

田副 雄太 (マリンステージ)

@伊豆富戸

福成 海央 (SciNeth)

@オランダ

古瀬 浩史 (IP 協会・帝京科学大学)

@山梨県・東京都

宮本 育昌 (コーラル・ネットワーク)

@埼玉県

村岡 秀 (帝京科学大学・学生)

@山梨県

由井 沙帆子 (帝京科学大学・学生)

@山梨県

【海辺の環境教育フォーラム 2021 オンライン】

主催：海辺の環境教育フォーラム 2021 オンライン実行委員会

後援：特定非営利活動法人 日本安全潜水教育協会 (JCUE)

一般社団法人 日本インタープリテーション協会

公益社団法人 日本環境教育フォーラム (JEEF)

【問い合わせ先】

海辺の環境教育フォーラム 2021 オンライン

共同実行委員長 河内 直子・鹿谷 麻夕

amamoworks@gmail.com (河内) m.shikatani88@gmail.com (鹿谷)

フォーラム公式 HP : <https://umibef.com/2021online/>